

第4回丹波市地域資源活用懇話会 議事録

1. 日 時 令和4年10月06日(水) 15時30分～17時00分

2. 場 所 春日住民センター大会議室

3. 出席者

○懇親会委員 (9名)

1号委員 関 美絵子

2号委員 藤井 和枝 竹内 真子

3号委員 荻野 祐一

4号委員 田辺 眞人 大木 玲子

5号委員 濱田 亮光 植地 惇

6号委員 宇瀧 広子

○事務局 (7名)

4. 協議事項

(1) 観光・商工業振興ユニティプラン(素案)に係る協議(観光編)

(2) 観光・商工業振興ユニティプラン(素案)に係る協議(商工業振興編)

(3) 第3回丹波市地域資源活用懇話会議事録の確認

5. 開会

事務局：定刻になりましたので、ただ今から第4回丹波市地域資源活用懇話会を始めさせていただきます。お手元の資料の確認をお願いします。今回は、事前に送付させてもらった丹波市観光・商工業振興ユニティプラン(素案)についてご意見いただきたいと思います。次第に沿いまして、田辺会長より挨拶をお願いします。

6. 会長あいさつ

～田辺会長挨拶～

7. 協議事項

田辺会長：それでは、次第に沿って協議を行ないます。

(1) 観光・商工業振興ユニティプラン(素案)に係る協議(観光編)

を進めていきたいと思えます。事務局から説明をお願いします。

～事務局から第1部総論の説明～

田辺会長：ただ今の事務局からの説明に関して、ご質問やご意見はいかがでしょうか。

委員：新たな資源の発掘が必要という事務局からの意見はもつともです。今後、誰がどのようにやっていくのか、具体的な戦略が出てくる事を期待します。

事務局：計画としては漠然とした部分もございますが、課題についてはこういう形で構成しています。

委員：8.前期計画の施策評価と課題で、実績の評価できる部分について事務局か

らは口頭で幾つか説明があったが、何を以って一定の効果とされているのか、次の計画に進もうとしているのかユニティプランを読んだだけでは分かりづらいので教えて下さい。次の素案の時に示して頂くと良いと思います。

事務局：次回の懇話会時に表など用いて説明したいと思います。

田辺会長：前回の懇話会時委員の方から具体的な事柄を上げて欲しいと要望があったと思います。各パートの最後にでも、文章にしなくても良いので出来た事、出来なかった事をキーワードで列挙して、出来なかった事に関しては課題を挙げてもらうのはどうでしょうか。

事務局：素案とは別の資料で作るのでしょうか。

田辺会長：委員の方から素案が分からないという意見が出ていますので、別資料の作成ではなく素案に入れてもらうこと形はどうでしょうか。

事務局：分かりました。前々回に配布している資料7を参考にしていきたいと思います。

田辺会長：資料7には出来た事は記載されていますが、出来ていない事が記載されていないので出来ていない事を書いてもらえるようにお願いします。

委員：ユニティプランを発信する対象は誰ですか。

事務局：ユニティプランは市の計画を外部に対して公表するもので、住民や事業者などが広く見ます。

田辺会長：市役所の職員の方には市の仕事の方向性を示し、商工業に関わる市民の方には計画をご覧いただき一緒にやっていきたいと思いますという事ですね。

事務局：そうです。

委員：そうではないかと思っていましたが、地域との連携が盛り込まれている中このページ数を住民の方が読むのだろうかという疑問を持ちました。分かりやすく読める数ページの物を用意し、深掘りしたい住民の方には詳細を用意したら良いと思います。

事務局：全体構想、観光振興計画、商工業振興計画をまとめた概要版をA4見開き4ページ程度で作成する事を考えています。

委員：資料が多くて読むのが億劫になってしまう。既出の言葉が重複して出てくるのは不必要だと思います。事務局側には申し訳ないが、もう少し分かりやすい資料を準備してもらえると嬉しく思います。

田辺会長：詳しく知りたい人には資料をお渡しして、要約版を作ってもらえたら良いと思います。

委員：限定的な効果や一定の実績が分かればヒントが見えてくるかと思う。次回に期待します。

田辺会長：丹波市の構想なので日本全体の流行に流されずに、丹波らしい特徴を出し

ていく方が良いと思います。丹波市でインバウンドの観光を考える必要があるのか疑問に感じることもあります。インバウンドの観光を考える理由は日本の原風景があるという事ですが、関空に着いた人は丹波市まで来なくても三田や篠山に原風景があり、丹波市にインバウンドの必要がない方が世間に訴えるところがあると感じます。また、海外の観光客が大勢来ると宿泊先がなくて困るのではと感じます。それを考えると阪神間からの訪問客だけで十分に丹波市の観光を支えるマーケット量があるのではないですか。日本全体で同じような内容の施策をうたれています。丹波市らしい特徴を出すことが必要ではないでしょうか。おもてなしが出来る人という意味で観光コンシェルジュの精神で観光客をもてなす、と書かれていますが、「観光コンシェルジュ」という言葉と「おばあちゃんの里」という言葉が合っていないように思います。スマートな国際派で行くのか、素朴であったかい故郷にするのか、流行の言葉に流されず中身を考えて計画するのが大事ではないでしょうか。観光の基幹産業化とありますが、丹波市の基幹産業は他にはどのようなものがあるのでしょうか。

事務局：一般的には農業と、実際の生産高など参考にとするとモノづくりである工業が一番、多いです。

田辺会長：観光基幹産業化は日本中で言っていると思いますが、丹波市で力をいれてするつもりはありますか。いい格好をせずに基幹産業であるものや、農業・工業を下支えするような観光産業の可能性を探る、くらいにしておく方が良いかもしれません。今更ぜんぶ改めるわけにはいかないが、市の経済政策として素案の中で正直なところを打ち出す必要があると思います。

事務局：前期計画で上がっていたもので、その基本方向は変えずに施策を変える形で後期計画を策定しています。

田辺会長：ユニティプランは変えられませんが、市の政策として考えたいと思います。コロナでインバウンドが止まって丹波市の観光にどういう影響が出たか聞いた時に 75%くらいは維持できているという返答をもらいましたが、インバウンドに対応していた街であれば 75%は減っているはずです。それがコロナ前と比べて減っていないのは他所にはない強みだと思います。計画の中で取り組むという話ではなくて、市の姿勢として世の中全体が流されている流行では考えず、丹波市の特徴に自信を持って良いと思います。説明について他になければ次の説明をお願いします。

～事務局から第2部の観光振興計画(観光編)の説明～

田辺会長：ただ今の説明にご質問、ご意見いかがでしょうか。計画の背景図を基に全体図を考えて頂いたらと思います。

委員：関係ないかも知れませんが、丹波市は丹波篠山市もだが秋に強く高源寺に渋滞が出来る。コロナの影響かバスが来る。友人に誘われ、やながわのモンブランを購入しようと10時前に行ったら、9時半に着いた三田から来た友人がまだ並んでいた。待っている間に行列を数えたら、小1時間の間に200人弱が来て11時過ぎになったら誰もいなくなった。やながわで私の後ろに並んでいた人は滋賀から来ていて宿泊はせず、1時間半ちょっとで来れるので何回も来ているらしい。その後、おばあちゃんの里でその人を見たが、そういう人や高源寺に行った人は、その後どこに向かうのだろうかという疑問が湧いた。もう1点は、丹波篠山市と名前を変えた時に、阪神間の人が丹波市と丹波篠山市は合併したと思っている。芦屋の友人や、奈良で行われた近畿大会に参加していた人などは丹波市と丹波篠山市は合併したけれど仲が悪いと言っている。それなら一緒に仲良くすれば良いと思う。あまご村にはバスが来ていたし、友達が予約を取って欲しいというのだが、土日は予約でいっぱいである。以上の事がこのままでは勿体ない気がする。

田辺会長：他にご意見はいかがでしょうか。

委員：事前に意見をいろいろと書いていましたが、それも反映されているということで、田辺会長が言われたように本気で基幹産業にするのであれば思い切って取り組み、舵取りをしていいのかと思った。今までやっている事に少し色付けする程度の取り組みではあまり変化がないと思う。現在、栗フェアが開催している。職員も何人か外に出ているが、大勢の人が丹波に来られていると聞いた。その人たちに聞くと、この後どこに行ったらいいのかという話が出ている。私も意見でも書いたが、情報発信と企画力がとても弱いと思う。大勢の方が丹波市に来ていて、支援があるのにそれらを上手くつなげられていない。それによって滞在時間だったり、機会を逃しているのが見受けられるので、上手くコーディネート出来るような取り組みが大事だと思う。それと観光課や商工振興課とは関係ないかもしれないが、栗を提供される方で、栗が足りない。栗の生産量を増やす思い切った取り組み。ネットで見たら京丹波市はふるさとクラウドファンディングで丹波栗の生産量を拡大し、生産者を増やして栗の取り組みを強化している。Iターンで来られた方などへ、丹波に来たら丹波三宝の苗木をあげるとか。虫がいてうまく成長しないとも聞いているが、それが出来るように行政の施策に取り上げて多くの方が丹波に来て生産ができて、栗に魅力を感じるようになればもっと広がる。前回の会議で委員の方が言われていたが、いろんな観光支援があるが切り口として丹波市として何をもっと広げるか、栗から観光地なり寺院とか出ていたと思うが、うまく関連付けていく。これもあれもありだと結局、丹波市は何もないと言われたら、これがあると言

いにくくなる。

田辺会長：他にご意見はありますか。

委員：同じような事かもしれないが、農家として感じるのは、卵、米、野菜を直接、買いに来る人が増えたという事です。最初はネットで連絡があり、丹波に遊びに来てくださいと言うと喜んで買いに来てくれる。私のところでも稲刈り体験をしています、田植え体験のリピーターが8割、プラスロコミで来た人と併せ40人くらい利用があります。丹波は農業が基幹産業であり、それぞれの農家が引き寄せるお客さんは、みなさんが考えているよりもかなり多いのではないかと考えます。丹波には全国でも珍しい有機の学校があり、有機の農産物を求めて都会から来られるお客さんも多いです。1月から2月の観光客がいない時には、冬野菜を得意とする農家がたくさんあります。収穫体験をしながら野菜を持って帰ってもらう、暖炉に当たる体験しながら温かい冬を迎える、農業と観光がうまく結びつくという良い集客になるかもしれないと思います。

委員：今日は観光協会の方がお見えにならないので分からないのだが、丹波に来てどこに行こうかと迷った観光客から観光協会に電話があったら、どこに勧めるのかという疑問です。私はマコモダケを亀岡で買っていたのだが、神河町がネット販売しているのを見つけてネットで購入しました。私は山南町に住んでおり、神河町はトンネルを超えたらすぐ行ける事から、観光がてら行ってみようと、観光協会に電話して生産者を教えてもらおうとしました。水曜日に電話をかけたが観光協会は出なかった。そこで役場に電話をかけ、マコモダケの生産者を教えてもらえますかと聞いたところ、水曜日は観光協会が休みなので分からないと言われました。丹波市には問い合わせがあった時に答えられるようになって頂きたいと思います。そういう場合は、丹波市はどこを勧めるのか知っておきたいのですが、どうですか。

田辺会長：意見をお聞きになり、事務局はどうでしょうか。

事務局：お問い合わせの内容にもよると思うが、買い物で野菜を求めるのか、お菓子を求められているのか聞き取り、パンフレットなど記載の場所をお勧めしています。観光協会でも分かる場所です。

田辺会長：今の質問は、もしも、どこかから電話があり柏原で待ち合わせをしていて、帰りにどこかに寄りたいがどこに行ったら良いか、という問い合わせには何処を勧めますかという質問です。前々回の会議でも出ていましたが、観光課の人が観光地へ足を運んでいただいているのかどうかという話にも繋がります。観光地を勧めるにはまず自分自身が情報を持っていないてはなりません。これまでの懇話会でみなさん方の意見を聞いていて思ったのは、

どこでもが言っている絵にかいたような観光施策と違い、丹波市は、と言う場合に宿泊を勧めないなど。内情として、個性的な宿泊施設が少ない。宿泊を勧めるのであれば、魅力的なホテルを建てれば良いと思います。そこまでの腹が決まらないのであれば、条件と来る人のニーズに応える為に、丹波の町の観光は宿泊ではないので通りがかりに寄って下さいと言うやり方でも良いと思います。来たらついでにここにだけは寄って下さいと言う場所を準備する事も必要です。そのうち多くの観光客が来て、宿泊の要望が出たら施設を作ります。農家の民宿は全国的に広まっています。丹波市に来て栗は大きいと思います。都会の人達は漁業、農業をしたいと移住していますので。丹波市では栗農家を育てます。それから、和菓子屋で栗が足りない、丹波は栗どころ。丹波に来たら土地を安く使うことができ、栗の栽培を教えるような移住を勧めるとか他所で出来ない事を勧めていく計画をここでしなくてはならない気がします。それと資料の丹波三宝はいつから「丹波三宝」という言葉を使い始めましたか。

事務局：平成25年あたりからです。今で9年弱くらいになる。観光の方で言い出したものです。

田辺会長：丹波市のオリジナルですか。

事務局：オリジナルです。

田辺会長：兵庫五国という言葉はかなり定着しました。我々が言い出したのは20年ほど前で現在は県民に兵庫五国を知らない人はあまりいないと思います。丹波三宝を定着させる発信が必要ではないでしょうか。丹波市内の人だけでなく兵庫県の人が丹波三宝を買いに行こうと思うように、長い努力が必要ですが丹波市にとっての大きな魅力になると思います。付随して栗農家、黒豆は丹波篠山市も含めて阪神間の人にも買いに来たり、収穫しにきたり、作ったりしていますが、小豆についても活用の仕方では丹波三宝はひとつの宝物だと思います。女子の硬式野球にも焦点を当てて良いと思います。女子の硬式野球の試合をするからと言って宿泊する人が多くなるわけではないが、多く来られると本当は困ることもあると思います。だが今までの話ですぐ帰ると言っているという事は京阪神からすぐに来る事が出来るからです。丹波には日帰りで気楽に来てもらい、プラスアルファを考えて、観光先を提供できるような情報を観光の市や観光協会スタッフが持っていて、今後、具体的な方針を立てて売る必要があると思います。丹波市以外で体験できる事は言葉を追求せずに、丹波独自の事を一生懸命考えていくのはどうでしょうか。丹波篠山市でも亀岡でも連携出来たら良いと思います。亀岡に来た人が足を延ばして丹波に来てくれると良いと思います。広域の連携が大きな力になるというのは明智光秀で痛感しました。丹波が出ない

大河ドラマで出る前から大勢のお客さんが来られました。なので、角を突き合わさずに広域の連携を行って、同時に丹波独自の、他にない物を見つけていく努力をする必要があるのではないのでしょうか。資料の事業目標の数値の表で、丹波市を見た事のある人の割合が令和4年で56.5%。これを目標70%にするという事だが、これを70%にしなくても54.5%は必ずリピートして2～3回くるのであれば、こんな数字は意味がないのではないのでしょうか。70%になったとしてもリピートが無く翌年が20%になったのでは意味がないと思います。数値も本当に意味のある数値を考える必要があるという気がします。

委員：思いついた事を何でも言うようにと聞いておりますので。丹波市内のアンケートの数値は中途半端な数字だと目に見えて分かり、ただ、それは強みではないかと思う。中途半端だからあちこちから来られたり、全方向から来れて通り道にもなっている。中途半端で何が悪いのかと反対にここを強みに捉える。今のところ丹波市の観光がイメージしづらいので、通り道を最短ルートから考えて観光を提案していくような具体的に観光のルート作りが目に見えて出てきたら面白い。ルートとテーマと季節。テーマは歴史であったり、滝に夕涼み水遊び、登山、遺跡を回れるなど面白い物を数か所、見え始めたら宣伝しやすいかと思う。前回の後、おばあちゃんの里に行った。今まで丹波の観光が何も見えないと思っていたが、おばあちゃんの里の1ヶ所に丹波の観光が全部、見えるというのを実感した。おばあちゃんの里に来るか、紹介するかの手があるなと思う。有名観光地ではない丹波市が健闘していると実感した。宿泊施設は無理と思うが、古民家で泊まるという柏原の計画が実行されたらと未だに思う。インバウンドの話は、ゆめタウンではかなり外国の観光客が居た。観光地に行って日本の神社、寺院をどう思うか分からないが、ラーメンなどの飲食を楽しむ可能性はあると思う。インバウンドに飲食が強い味方になってくれると思う。城崎に行く手前で丹波に寄る可能性があると思った。丹波三宝の写真は私の子どもの頃から見ている写真で、今の黒豆はこれよりもっとつやもあり、大きいのではないかと思う。製品化された後の黒豆の写真もイメージしやすいかと思う。もう少しだけ具体的に観光のところで体験なのか、観光名所なのか、ぐちゃぐちゃになっているが、バーベキューやキャンプ、ジビエバーガーなど具体的な名前は書いてはダメなのか。黒枝豆などが入ってくれば、もっと現実味を帯びてくるし、食品名と体験と観光スポット歴史名称、花の事を分けて書いてもイメージしやすいと思った。

田辺会長：具体的なものを上げるということですね。西日本どこからでも行けるというようなキャッチコピーを出せば、丹波は京都も大阪も日本海側にも鳥取にも、

重要交通路の十字路なので、最終目的地ではなく通過の時に寄ってもらうというのを、将来的に打ち出しても良いと思います。私はインバウンドを否定しているのではなく、丹波が観光基幹産業というのと一緒にインバウンドを中心に出す必要は特にはないと思います。他市町村のやっていない事で、今まで弱みみたいに言われていた事。売る時に中途半端な観光地でも良いと思います。尼崎市が「尼いってきました。」と印刷した紙袋を観光客に渡しています。尼崎で買い物をした観光客がそれを持って帰り、帰った場所で話題にあがります。丹波に行ってきたという印刷で売れるような、アピールできるようなユニークな方法を考えたら良いと思います。

委員：丹波三宝という言葉はすごく良い。丹波三宝は良い言葉だ。後ろに誰か有名な人が付いて考えたのではないかと丹波篠山市の方に言われた。11月に女性部が県で全国大会に参加した。兵庫県は28団体ある。兵庫五国として打って出た。丹波市はやながわさんと谷甲賀堂さんに出てもらった。丹波市の黒豆とお菓子が1時間ちょっとで売れてしまい、やながわさんが追加の黒豆を取りに帰った。驚くほど売れて女性部全員が驚愕した。神戸ポートピアホテルで2,000人ちょっと、ホテル側も300万～400万の売り上げがあり、女性部は何千万の売り上げがあった。丹波市はやながわさんは、神戸ではクッキーなどは負けるので丹波三宝でやると、煮豆、黒豆、小豆が1時間ちょっとで売れた。2,100人ほどバスで参加者が入ってきた。みんなが丹波三宝はすごいと言っていた。枝豆はまだ関東に浸透していないが、丹波の黒豆の力は凄い。売るなら3つに力を入れてもらいたいと実感した。

田辺会長：阪神間で宗教行事だが社会現象と言われているものが2つあります。西宮のえびすさん、宝塚の清荒神。清荒神は名称が三宝荒神です。清荒神の参道にサテライトショップみたいに店を出して、うちも三宝だと丹波三宝を売ると阪神間に丹波三宝の言葉が定着すると思います。丹波三宝を継続して発信し続けてもらったらと思います。その他ご意見はどうでしょう。

委員：最初の方から出ている意見で、私もこういう資料をよく見るのですが、全体量が掴みにくいと思うものばかりで、市民に出す前に私たちが次回の素案を議論する中で、全体の方向性がこれでいいのか柱である点を確認する必要があります。時間があれば観光でA3を1枚、商工でA3を1枚というような形で、体系図に個別の意見を落とし込んでもらって箇条書きで作ってもらうと、全体の関係が改めて工夫出来るのかなと思う。それに加えて、実際に出来るかどうかは別にして計画はこれで終わりではなく、これをバイブルとして事業を進めていくと思うので、それぞれ具体的な施策が上がってきて、観光部局や観光協会、農林部局の誰が担当するのか仕分けをして進めていく。その中で目標数値が合って、目標も前回の分のもみじかたくりをすると言っていた

が、取り込まなかったのは計画にあったが予算がつかなくて出来なかったのか、なんとなく立ち消えになったのか、そこを評価した上で後期を考えるものだと思う。今後、後期計画については道筋がはっきりして、みなさんの意見が反映されたものが実行に移せる形で具体的な施策をどうすべきか整理していったら実現すると思った。

田辺会長：何通りかで詳細なものから一見して分かるようなまとめ方が必要になると思います。先ほど出ていたのが A3 の裏表で A4 のページでまとめるというものですが、今の意見では A3 の裏表 1 枚で、もっと簡略された要約を作ってもらえるということですね。今日の事前の打ち合わせで協議事項は観光編しか出来ないかもしれないと思うと言っていたが、それでも良いのですか。

事務局：時間が残りわずかなのでそれをお願いします。

田辺会長：今日は観光編のまとめについて、という事でよろしいでしょうか。他に意見がありますでしょうか。

委員：私も丹波三宝は洒落たネーミングと思う。丹波市の顔として明確に売り出すのにいいと思う。同意見です。丹波篠山市は黒豆もあります、栗もある。丹波篠山市には小豆がそれほどないのではないかなと思うので、丹波らしさで丹波三宝といったときにいいネーミングだと思う。どんどん押し出していくべき。有機農業も歴史がある。山南町の薬草も丹波らしい。この計画には薬草の文字がない。おばあちゃんの里に行った時に薬草料理が食べられるとか、イベントで薬草を販売しますとか、あれだけの集客力がある場所を活かさない手は無いと思う。そこで入浴剤購入者が山南町の薬草薬樹公園に行くという風なリンクさせていく手がないのかなと思う。三崎省三(みさきしょうぞう)という甲子園球場を計画した人物の出身が春日町黒井です。阪神電鉄の専務です。

田辺会長：お墓か生家を調べて頂いて、女子の野球の開幕か決勝の後はそのに行くとか。

委員：この人は明治初期にアメリカに留学し、スタンドフォード大学を出て阪神電鉄に入り、専務になって社長になって甲子園球場を作った。女子の甲子園があり、男子の甲子園球場を作ったのも春日だというふうにアピールすればいいかと思う。

田辺会長：お墓が分からなければ市民から募金を集めてその人の顕彰碑を女子の高校野球をするグラウンドに建てたら良いと思います。甲子園にもつながりますので。薬草も西洋医学の薬品と違い持続可能な健康の為の薬ですから売り様はたくさんあります。丹波三宝は色で言えば赤黒黄でドイツの国旗のようですので、丹波三宝の旗を作ってなぜ丹波市は旗を作っているのか、なぜ甲子園に関係のある人の顕彰碑があるのか。出来る事はたくさんあると思います。他所で出来ない事をどんどん進めていく事です。今回は、前期で決めた事の後

期の問題なので、前期で決められた事を変えられない事もありますが、ここで出ている意見や議論は次の時の観光振興の施策に提供して発展していけるようにご記憶を頂きたいと思います。

委員：今日の議論の中で気になるのは丹波市の観光を基幹産業にするという話で、ここの議論は揺らいでいるのかなと感じる。みなさんが、これはどうなんだろうと思っている流れになっているのかと思う。個人的には、そういう勢いがないと計画はダメだと思う。宿泊費を求めないとか腹をくくって面白く良いと思うが、それに代わる勢いをつけるものが計画の中になにか必要と思う。基幹産業化という言葉を出さないとするのであればインバウンドも宿泊も、枠組みの中で勢いのあるものを是非、ここで作りたいと思う。年間の観光人込客数が 300 万人で観光産業の消費額が 300 億円ということは 1 人 1 万円、使ってもらわなければならない、これを達成しようとする絶対には宿泊が必要。基幹産業化するというところで前回にも意見を書いたが、観光資源が勝手に有機的に結びつくはずはないので、どうにかして結びつける手が必要。それを担ってもらうのが観光協会の専門スタッフというところからスタートすると思うが、何の為にやるかと言うと観光資源を周遊してもらう。周遊してもらうのはなぜか、滞在時間を増やして、消費額を増やす為に周遊を増やす。その先に何があるかと言うと、丹波市に宿泊したいという事が出てくる。別々に存在しているのではなく、周遊と滞在時間が増える、食事する、宿泊するのは有機的に結びついていていいものだと思う。戦略的に魅力ある宿泊施設を作る、食事をする事も別々に書いてある感じがするので、ここを有機的に結びつけるのにどうするかという書き方をして欲しい。勢いのある計画作りの為にお願いします。丹波市ファンの増加に向けて、3 行で書いてあるが内容が非常に弱い。丹波市ファンの増加はとても大事で、リピーターが増えたり、新しい地域振興にも繋がっていくので、これの 5 倍 10 倍くらい書いてあっても良いと思う。我々も意見があれば出したいと思うし、作成頂く方にももう少し集めて書いてもらう意識が必要と思う。

田辺会長：これは後期のものなので、ここで基幹産業をカットするわけにはいかないと思います。先ほど言ったように後期で出来なかったらどうするかを考えなくてははいけません。基幹産業ではないが、丹波市の基幹産業を補完する産業とか、そうでなくては言葉だけで世の中の流行に引っ張られても実態を伴いません。後半で実態が出来るように努力していく必要があると思います。

田辺会長：次回の懇話会の日程をお願いします。

7. 次回懇話会

事 務 局：次回の懇話会開催日ですが、11 月 8 日（火）の午後 1 時から午後 2 時半まで
春日住民センター大会議室で開催いたします。よろしくお願いします。

8. 閉会

田辺会長：それでは閉会いたします。次回もよろしくお願いします。